

2021/05/17 (月)

朝の礼拝

聖書 レビ記19章 9-10節 (旧約聖書192頁)

穀物を収穫するときは、畑の隅まで刈り尽くしてはならない。収穫後の落ち穂を拾い集めてはならない。ぶどうも、摘み尽くしてはならない。ぶどう畑の落ちた実を拾い集めてはならない。これらは貧しい者や寄留者のために残しておかねばならない。わたしはあなたたちの神、主である。

隣人愛のDNA

今も、そしてこれからもAI（人工知能）に出来ないことは、人間が人類誕生から何百万年と培ってきたもの“*Empathy*”（共感）だと言われています。まだ言語能力もない頃から、人間は悲しみや喜びを分かち合い、力を合わせて生き延びてきました。そして約6万年前に氷河期の中、グレート・ジャーニー（大移動）を始めました。

実は、イエスの時代より前、旧約聖書の民である古代イスラエル人も放浪する民でした。古代エジプトの奴隷であった彼らはわずかな水と糧を分かち合って渴きと飢えを凌ぎ、旅を続けたのでした。そして彼らは約束の地に定住して、小麦やぶどうの栽培を始め豊かになったのです。

ところが有り余るほどの収穫によって彼らの間には貧富の差が生まれ、格差のある社会となりました。今日のレビ記はそうした彼らに先祖が飢えと渴きの中でわずかなものを分かち合ったことを思い出し、貧しい者や寄留者のために落ち穂を拾い集めず、ぶどうを摘み尽くしてはならないと言っているのです。

この後の18節には「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」とあります。翻訳では「愛しなさい」と命令形ですが、英訳聖書では“*You shall love your neighbor as yourself*”とあります。「あなたはあなた自身のように隣人を愛するだろう」と未来形の訳です。隣人愛はすでに人類のDNAとして私たちの心にあるのです。

(しばらく黙祷しましょう)

英和女学院、英和生を愛し、励まされる主よ。

あなたは私たちを互いに愛し合うために造られました。今、イスラエルのパレスチナ攻撃によって犠牲になった方々、特に子どもたちの魂の平安を祈ります。そして国内で攻撃を非難し、和平を求める医療従事者、特に看護師の方々、すべての平和を求める人と共にひと時でも早い平和を祈ります。

どうか、今日一日もすべてをあなたに委ね、安全で健康な学校生活を守り、今週の生徒総会、来週の間接テストへ向けてよき学びの時をお与え下さい。

主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン